

# 平成 28 年度 学校教育自己診断結果

- 対 象 生 徒 (回収 128 人 △20)
- 保護者 (回収 12 人 ▲ 6)
- 教職員 (回収 24 人 △ 2)

●実施時期 平成 28 年 11 月

## 1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目		肯定的意見(回答3・4の合計)(%)	H28	H27
2	この学校には、他の学校にない特色がある		86%	91%
25	人権の大切さについて学ぶ機会がある		84%	80%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる		84%	89%
17	学校生活の中で、あいさつができています		84%	85%
23	定通修学奨励費制度、教科書給付・夜食給食援助制度、奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる。		81%	90%

- ・年間 4 回の人権学習を通じて生徒が様々な人権課題について考える機会が多くあり、教員が発するメッセージが伝わっている。
- ・今年度から府教育センター主催の『パッケージ研修支援Ⅱ』を実践し、Ⅲ部として生徒にどのような力をつけさせたいかを教員研修で協議した。その研修の結果をもとに研究授業 (2 回)、研究協議 (2 回) を重ね、多くの先生が授業改善に取り組んだ結果である。

○肯定率の低い項目			H28	H27
26	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある		54%	55%
5	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある		55%	62%
27	授業では特別教室を利用する機会がある		58%	75%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある		58%	57%
10	授業中は学習できる雰囲気は保たれている		61%	71%

- ・今年度から授業改善に取り組むようになってきたが、成果はあらわれていない。実験や実習の時間や、自分の考えをまとめたり、発表したりする場面が不足している。
- ・授業中に私語をしている生徒や、携帯電話・スマートフォン等を使用している生徒への指導に時間をとられ、授業に影響が出ている。

## 2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

### ○得点の高い項目

#### 「学校に対する意識に対すること」

- 生 徒：この学校には、他の学校にない特色がある。 《86%》
- 保護者：この学校には、他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。 《92%》
- 教職員：この学校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。 《83%》

#### 「教育活動に対すること」

- 生 徒：学校は進路についての情報を知らせてくれる。 《81%》
- 保護者：学校は進路や職業などについて適切な指導を行っている。 《100%》
- 教職員：生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。 《83%》